

移住先での暮らしのヒントになる

森の京都 移住・定住マガジン



Vol. 01



京都府南丹広域振興局
制作：一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）

もくじ

Index



仕事そのまま移住 (亀岡市)

仕事と自然との調和がもたらすワークライフバランス

岡本 祐一 さん

P3



やりたいを叶える移住 (亀岡市)

人との絆と安心感が挑戦を後押し

小澤 亜梨子 さん

P7



なりたい自分を叶える移住 (南丹市)

農業の喜びと地域の絆で彩られた人生の新たな章

粟 耕輔 さん

P11



アントレプレナー移住 (南丹市)

地域ならではの支援が夢の実現を後押し

朱島 伸 さん

P15



独立をきっかけに移住 (京丹波町)

人の温もりに支えられる田舎暮らし

福島 大輝 さん

P18



祖父からの事業承継をきっかけに移住 (京丹波町)

農業・食で京丹波を盛り上げる

野村 幸司 さん

P22



ワークライフバランス

仕事と自然との調和がもたらす

仕事そのまま亀岡移住..

森の京都での暮らしのヒントとなる 情報を発信する「森の京都移住・定住マガジン」がスタート！！

今回は京都市から亀岡市に移住された岡本祐一さんにお話を伺いました。

岡本さんが都会の喧騒から逃れ、生活にゆとりを持つために亀岡市に移住したエピソードをご紹介します。京都市からの移住を決意した背景や亀岡市を選んだ理由、都会と自然の調和がとれる環境によるワークライフバランスの向上など、移住を考えている方へのメッセージが詰まったお話をお聞きしてきました！



| Profile |

おかもと ゆういち
岡本 祐一さん

京都市出身。都会の賃貸マンション暮らしから、新住居と新たな環境を求めて2008年に亀岡市篠町の新興住宅地に移住。癒やしのある自然の素晴らしさと、暮らしの中で様々な人とのつながりに気づかされるような、ちいさな街ならではの「やさしい関係」に魅力を感じて暮らしている。

仕事を変えずに ゆとりある生活を求めたことが きっかけ

一 亀岡市に移住されたきっかけは？

岡本さん：生活にゆとりを取り入れたいと思ったからです。以前は京都市内に住んでいたのですが、結婚して7年ほどが経過したタイミングで、当時は賃貸物件に住んでいたのですが、家賃や管理費、駐車場代を払っているということは、住宅ローンを払っているのと同じだなと感じはじめ、それであれば家を建てたいなと思い、また、生活や環境の中にも都会では得られないゆとりを求め、亀岡市に移住することに決めました。

一 生活にゆとりを取り入れたいと思われたことがきっかけなんです。移住を検討する際に亀岡市以外の地域も検討されたんですか？

岡本さん：はい。滋賀県になるのですが、瀬田や南草津あたりも検討していました。

一 滋賀県内も検討されたんですね。比較された結果、どのような理由で亀岡市を選ばれたのでしょうか？

岡本さん：一番は都会的な利便性を有しながらも豊かな自然に恵まれているという点ですね。私の母親の田舎が和歌山の日高川町というところで、子どもの頃に夏休みなどでよく帰省していたのですが、そのときから自然豊かな環境に魅力を感じていて。

移住に伴い転職等は一切考えておらず、当時の職場が京都市内であったため、通勤にも非常に便利かつ日々の生活から自然を身近に感じることのできる亀岡で家を建てることに決めました。

一 亀岡市は都会と田舎、どちらの良いところも持っていますもんね。移住された当時が京都市内、現在が長岡京市内まで電車通勤されていますが、実際に通勤されてみてご負担等はないですか？

岡本さん：はい。京都市内に住んでいるときは仕事の日には帰って寝るだけという日々を過ごしていたのですが、亀岡に住んでからは通勤のときにも自然の景色をみれたり、虫の鳴き声が聞こえたりして、ほっとした気持ちになることができます。移住前に比べて、仕事と生活の調和が図れるようになったと感じています。

亀岡の魅力は自然と コミュニティの結びつき

一 岡本さんが実際に住んでみて感じられている亀岡市の魅力について教えていただけますでしょうか。

岡本さん：たくさんあるのですが、特に魅力だと感じていることは2点あります。

1点目は、日常の生活のなかで自然を感じられることです。実は移住後に仕事がとても忙しく心身ともに疲弊してしまい会社を休まざるを得ない時期がありました。



その時期は朝7時に出勤して夜の23時に帰るという毎日で、自身に課せられた責任を果たせるよう頑張っていたのですが、気力がもたない状態になってしまい、働きたくても働けなくなってしまいました。その時にリハビリを兼ねて自宅近くの山を散歩するようにしたのですが、オオムラサキという蝶々を目にして感動したり、様々な動物に触れることで、自身もそんな動物のひとりなんだと気付くことができ、一気に気持ちが楽になったんですね。

気持ちが楽になったことで仕事に復帰することができ、今でも継続して働くことができていますが、もし移住前の京都市に住んでいるときに同様の状況に陥っていたら、きっと仕事に復帰することができなかったと思うので、亀岡に住んでいて本当に良かったと感じています。

2点目は、人との繋がりです。

京都市内に住んでいるときは地域のなかで人との繋がりを実感するということはなく、私とその地域に住んでいることを、多分誰も知らないし、どんな人だろうが全く関係ないという感じだったと思うんです。

一方で亀岡は身近なコミュニティが充実していて、人と人の距離が非常に近いです。人と人の距離が近く、地域のなかに繋がりがあるため、ひとりひとりがお互いへの思いやりを大切にしており、日常から助け助けられの関係を築くことができます。

実際に私が代表を務める市民団体「Team DO IT !!!」の活動で、約5,000個のチューリップの球根を用いてチューリップアートに取り組んだときに場所の確保に苦労したのですが、人との繋がりからサンガスタジアム近くの畑を貸してもらえることができました。

亀岡には困ったときだけでなく、何かを始めたりチャレンジしようとするときにも応援して下さる人がたくさんいるので、新たに何かを始めようと考えられている方にはとてもおすすめの街です。



▲ 実際のチューリップアートの様子

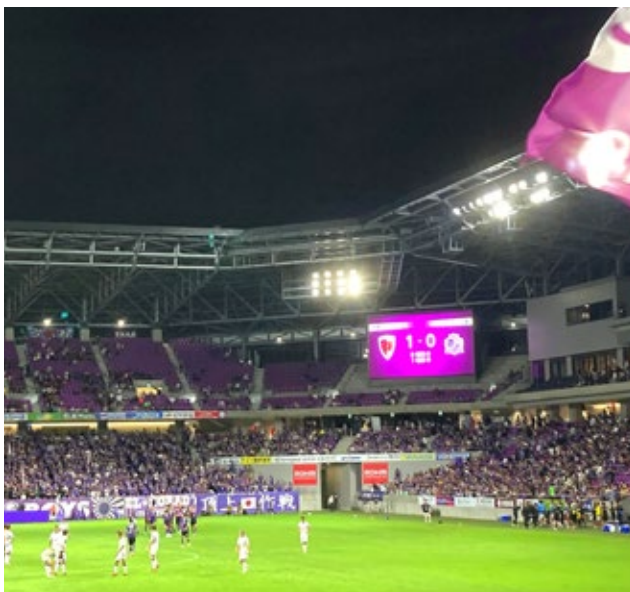


▲ 市民団体「Team DO IT !!!」さんは、チューリップアート以外にも子どもから大人までが参加できるサツマイモの収穫体験など様々な活動に取り組まれています。亀岡に興味をお持ちになられた方はまず「Team DO IT !!!」さんの活動に参加してみてもはいかがでしょうか。

「叶えたい暮らし」の明確化と 地域に足を運ぶことを大切に

一 最後に移住を考えている方へのアドバイスを お願いします。

岡本さん：まずは「叶えたい暮らし」というものを明確にすることが大切ではないかと思います。「叶えたい暮らし」が明確になることで必然と条件や優先順位というものをはっきりして、自分たちに合う地域、合わない地域というものを見極められるようになるのではないのでしょうか。あと、移住する前に気になる地域には足を運んでみるということも大切だと思います。私の場合、移住する前に仕事で何度も亀岡に足を運んでいてある程度、街のことを知ることができていたので、移住後の生活がイメージでき、実際に移住後のギャップというものもありませんでした。実際に自分の足で街をウロウロしてみないと分からないこともたくさんあるので、一次情報を大切にさせていただければと思います。



▲ 岡本さんはサンガサポーター。

亀岡駅前のサンガスタジアム by KYOCERAでのスポーツ観戦もおすすめ。

岡本さんのお話、いかがでしたでしょうか。

仕事はそのままでよりワークライフバランスを充実させたい方や、何か新しいことにチャレンジされたい方にとって、何かしらのヒントを得ていただけたのではないのでしょうか。

また、「移住を考えているけど何から始めたらいいのか分からない」と思っている方に関しては、まずは「叶えたい暮らし」というものを明確にしてみてもいかがでしょうか。

きっと自分たちに合う地域というものが見極められるようになるはずですよ。

岡本さんの活動をもっと知りたい方はこちら

市民団体「Team DO IT !!!」

- Facebook

<https://www.facebook.com/teamdoit.kameoka/>

- Instagram

@teamdoit_kameoka

岡本さんとお話してみたい方や会ってみたい方は森の京都 DMO までお問合せ下さい！



人との絆と安心感が挑戦を後押し

やりたいを叶える亀岡移住…

森の京都での暮らしのヒントとなる 情報を発信する「森の京都移住・定住マガジン」

今回は京都市から亀岡市に移住された小澤亜梨子さんにお話を伺いました。都会から自宅アトリエへ。デザイナーとしての新たなキャリアや暮らしを求めて亀岡へ移住した小澤さん。亀岡への移住に至った動機や理想の暮らし、心地よい人との関係性について語っていただきました。

| Profile |

おざわ ありす
小澤 亜梨子さん

1991年、京都府八幡市生まれ。作家・イラストレーター・グラフィックデザイナー。2017年から2021年にかけて、放課後等デイサービスのアートプログラムの講師や、就労継続支援B型事業におけるパッケージデザインなどに携わり経験を積む。2020年よりステンシル技法で描いた絵を発表し始めたことを機に、イラストレーターとしての仕事を本格的にスタート。2022年7月から亀岡に住み始め、週末は自宅の一部を「3じのアトリエ」としてまちに開く試みをしている。



自然も人と人の関係性も ちょうど良い距離感

— 亀岡市に移住されてアトリエをはじめられたきっかけは？

小澤さん：前職で勤めていた京都市内の福祉施設を退職するとなったときに、転職ではなくフリーランスのデザイナーとして活動しながら、自宅に拠点を構えてアトリエ活動に取り組んでいきたいと考えたことがきっかけです。

— 様々な選択肢があったと思うのですが、なぜ亀岡を選ばれたのですか？

小澤さん：大きく2つあります。一つ目は、亀岡で希望の条件にマッチする物件に巡り合えたことです。アトリエ利用ができかつオシャレな物件を探していたのですが、京都市内で気になる物件はどれも家賃が非常に高く条件がマッチしませんでした。二つ目は、移住する前にお仕事で亀岡に通う機会があったことです。



— もともと亀岡でお仕事をされていたことも移住の決め手ということですが、この点について、もう少し詳しくお聞かせいただけますでしょうか？

小澤さん：前職を辞めるか辞めないかというタイミングで、みずのき美術館（亀岡市）さんとお仕事をさせていただくことをきっかけに定期的に亀岡に足を運ぶことになりました。その際、ただ通うだけでなく、まちに暮らしている方々と交流することもでき、京都市内から近いにも関わらず自然が身近にあり、人と人の距離も良い感じでとても素敵な場所だと感じました。

— ただお仕事をするだけでなく、地域の方々と交流の機会もあったんですね。「人と人の距離が良い感じ」という部分について、何かエピソードなどあればお聞かせいただけますでしょうか？

小澤さん：とても些細なことですが、まちに暮らしている人と何か用事があるわけでもないのに気兼ねなくお話できたときに実感しました。ひとつエピソードをお伝えすると、仕事で初めて訪れた地域を歩いていたときに、ある畑に変わった植物が生えているのを見つけてそれをまじまじと観察をしていると、その畑のおばあちゃんが「珍しいでしょ」と声をかけてくれました。京都市内に住んでいるときには、まちに暮らしている人と挨拶すらしたことがなく、自宅というのは職場との行き来だけの場所という風感じていたので、まちに住んでいる人とフラットにしゃべれたという経験がすごく心に残り、人と人の距離感がとても素敵だと感じました。



ー ありがとうございます。移住を検討するうえで地域で暮らしている方々とのお付き合いが大変なのではないかと心配される方がいらっしゃると思いますが、その辺りはいかがでしょうか？

小澤さん：移住して一年以上経ちますが、今まで大変だと感じたことはありません。地域のなかでお互いを意識し合っているということは日々感じていますが、決してガツガツ踏み込んでくるわけではありません。私自身もどちらかという人見知りで、ガツガツこられると構えてしまうので、ちょうど良い距離感だと感じています。



日常の暮らしのなかに自分を元気づける場所があることの安心感

ー フリーランスのデザイナーとして新たなチャレンジをするうえで亀岡という地域を選んで良かったなとお感じになられていることはありますでしょうか？

小澤さん：まず、自身の拠点となる場所を持つということがブランディングに繋がり、自分のやりたいことや目指していることを明確に言語化する手助けになりました。

また、フリーランスというキャリアチェンジを選択することに最初はとても不安がありましたが、亀岡の中にはさまざまな活動や仕事をされている先の方がいて、ちょっとした話をしたり、聞いたりできる場所が数多くあることも非常に心強く感じています。日常の暮らしのなかに気軽に立ち寄れる場所、自分を元気づける場所があるということは大きな安心感につながっています。

ー 逆に移住をされてみて不便に感じたことや困ったことなどはありましたか？

小澤さん：最初の方は電車の本数が少ないことに戸惑いました。最寄駅が並河駅になるのですが、本数がだいたい一時間に一本ぐらいで、電車でどこかに出かけるにしても早く着いてしまうか、遅く着いてしまうかで、大変だなと感じていました。ただ、慣れてくるとある意味、余裕をもって行動するということにつながり、問題なくなりました。

余談ですが、京都市内に住んでいる友人などからとても気を遣われます。

亀岡は遠いというイメージを持っている人が多いのか、「京都市内まで出してもらおうのが申し訳ない」と言われることが頻繁にあります。全然遠くないです。(笑)



憧れの人の暮らし方を調べてみるとヒントが見つかるかも

一 最後に移住を考えている方へのアドバイスをお願いします。

小澤さん：自分の理想の在り方や暮らしというものについて徹底的に考えることが大切だと思います。私自身、前回の引っ越しでは都会が好きだと思い込んで京都市内に住んでみたのですが、結局、合いませんでした。本当は身近にちょっとした自然というものを必要としていたにも関わらず、自身の本当の気持ちに目を向けることができていませんでした。

一 自身の理想の在り方や暮らしを考えるうえで、何かヒントなどはありますか？

小澤さん：頭の中で考えるだけでなく、こういう場所に住みたいとか、こういう暮らしをしたいなどを紙に書いて洗い出してみるといいのではないのでしょうか。私の場合、洗い出したうえで、理想と重なる写真をたくさんみてイメージを膨らませるようにしていました。

また、私はエッセイなどを読むのが好きなのですが、好きな作家さんや尊敬している作家さんの在りたい姿や暮らし方というのも参考にしているので、皆さんも憧れの人の暮らし方を調べてみるとヒントが見つかるかもしれません。



小澤さんのお話、いかがでしたでしょうか。特に新しいキャリアに挑戦したい、自身で拠点を構えたいと考えている方にとって、大きなヒントになったのではないのでしょうか。夢を叶えたい人、自身の可能性を広げるためのヒントを探したい方はぜひ一度、亀岡に足を運んでみて、小澤さんをはじめとする先人の方々とお話をしてみたいはいかがでしょうか。

小澤さんの活動を もっと知りたい方はこちら

● オフィシャルサイト「studio.A」
<https://studiodota.com/>

● Instagram @dot_a_art ● X (旧 Twitter) @dot_a_art

● 3じのアトリエ
<https://studiodota.com/workshop-atelier.html>

小澤さんとお話してみたい方やお仕事の相談をしたい方は森の京都 DMO までお問合せ下さい！



人生の新たな章

農業の喜びと地域の絆で彩られた

なりたい自分を叶える移住…

森の京都での暮らしのヒントとなる 情報を発信する「森の京都移住・定住マガジン」

今回は南丹市美山町に移住された栗耕輔さんにお話を伺いました。人生におけるおもしろさを求めて美山町へ移住した栗さん。

移住のきっかけや移住農業の魅力、豊かな地域コミュニティについて語っていただきました。



| Profile |

しずく こうすけ
栗 耕輔さん

1977年、大阪府高槻市出身。もともとは都会でアパレル関係の仕事に従事していたが、農業部門への配属をきっかけにおもしろさを求めて農業の道へ。2022年7月にSHIZUKUFarmを設立し、南丹市・美山町に移住。無農薬でお米やさつまいもを大切に育てている。



一 南丹市美山に移住されたきっかけは？

雫さん：前職で農業事業部に配属されてから約4年間、京都市内から美山に通いながら農作業を経験しました。働いているうちに、農業であれば自分でも独立できそうという気持ちが芽生えるのと同時に地域の方々とも仲良くなっていて、とても住みやすい場所だと感じたことがきっかけです。また、美山での生活がコスト面においても魅力的であると感じました。例えば住宅購入においても京都市内と美山では大きな違いがあり、自身のキャリアプランにおいてローンを組む気が無かったなかで、美山であればローンを組まずに住宅が購入できるという点も非常に大きかったです。

一 前職で農業部門に配属された時点では、将来的に移住するという事は考えていましたか？

雫さん：いえ、昔から独立して自分でやるということには興味があったのですが、農業部門に配属されたタイミングでは一切考えていませんでした。

一 農業部門ではどのくらいのタイミングで移住を検討されたのですか？

雫さん：4年目ぐらいです。会社に雇用されていることには安心感があったのですが、農業に携わるなかでおもしろさを求める気持ちが湧いてきました。安定とおもしろさを天秤にかけた時、今後の人生においてはおもしろさを大切にしていきたいと思い移住を考えるようになりました。

一 雫さんが考える農業の魅力・おもしろさについて教えてください

雫さん：農業の魅力は自分で作り上げていくプロセスにあります。農作業は流れ作業ではなく、答えがあるようでない状況で、工夫を凝らしながら進めていく過程が楽しく、自身に合っていました。自分で農作物をつくり、それを食べるという経験は、農業を通じてしか得られないものであり、非常にやりがいを感じています。

一方で、農業は販路の開拓や差別化が求められる一次産業であり、これを楽しさに変える難しさがあります。特に米などの競争が激しい分野では、どう差別化し、独自の価値を打ち出していくかが重要です。売先の確保や単価の維持、専業での営みの難しさもありますが、これをクリアすることで、一層農業の楽しさが広がると考えています。

一 独自の価値を打ち出していくうえで大切にしていることはありますか？

雫さん：多様な方々と連携していくことが大切だと考えています。つい先日も地域の方々が自分の想いを語り、繋がる場である「亀ニケーション(※1)」という交流会に参加したのですが、そこで、「さつまいもを使った加工品を作りたい」という自身の想いを伝えたところ、関東でカレー事業を営まれている方を紹介していただきました。最初は「さつまいもで美味しいカレーを作れるのかな？」と思ったのですが、関東の方、ましてや加工品事業を営まれている方と出会う機会はない、自身の想いを叶えるチャンスだと思い、協力をお願いすることにしました。そして、何度か打ち合わせを重ねた後に「農家が作った熟成安納芋カレー(※2)」を販売することができました。自身だけの力では決してカレー食品をつくることはできなかったのも、地域の方々の応援のもと「さつまいもを使った加工品を作りたい」という想いを叶えることができ、非常に嬉しかったです。

ー 南丹市美山町の魅力について教えてください。

雫さん：都会と比べて横のつながりがあり、みんなが仲良く生活している点が魅力だと思います。私自身も移住者でありながら地元の方々には温かく受け入れてもらい、可愛がっていただいています。



※1 南丹市・亀岡市に暮らしている方や興味のある方が交流し、つながる場。月1回のペースでサンガスタジアムのコワーキングゾーンを中心に開催。どなたでも参加可能なので、興味のある方は下記のリンクを要チェック。

<https://www.facebook.com/groups/824102135276508/about>

※2 現在はオンラインサイト「SHIZUKU FARM」にて販売中。

<https://shizukufarm.base.shop/>

ー「横のつながりがある」という部分について、何かエピソードなどあればお聞かせいただけますでしょうか？

雫さん：真つ先に思い浮かぶのは地域の消防団です。消防団に入る前は60歳以上の方々とのつながりしかありませんでした。しかし、消防団に加入して色々と活動していくなかで一気に横のつながりが増えていきました。特に同世代の方々とのつながりが生まれ、新しいコミュニティができました。都会では同じ世代の人が近所にいてもなかなか繋がりが生まれませんが、消防団を通じて横のつながりができたことは新たな人間関係を築いていくうえで非常に意義深かったです。

ー 地域の方々と良い関係を築くうえでどのようなことが大切だと思いますか？

雫さん：地域の活動に積極的に参加し、貢献していくことが大切だと思います。



地域には様々な役割が存在し、移住して1年目に「担い手がないから」といって副区長の役をお願いできないかという相談をいただきました。移住したばかりの者がお受けしていいのかどうか悩みましたが、地域の方々とお互いに力を合わせていくことで良い関係を築けると思いお受けしました。

積極的に地域の活動に参加することで地域に暮らす様々な方とつながりを持つことができ、結果的に地域社会に溶け込むことができます。

一 最後に移住を考えている方へのアドバイスをお願いします。

雫さん：事前の情報収集が大切だと思います。地方には不動産会社、仲介業者がなく家を探す際に自身で交渉しないといけないことが多かったり、田舎では浄化槽を入れた方がいいということであったり、自治体による移住に対する公的支援金であったり、事前に知っておいた方がいいことがたくさんあります。

まずは実際に移住された方の話を聞いてみることをおすすめします。もし、身近に移住された方がいないという場合は、ぜひ検討している地域の行政の方々に相談して下さい。

私自身も行政の方々には非常にお世話になっており、生活をするうえでも農業を営むうえでも大きな助けになっております。南丹市の職員の皆さまはとても親身になって話を聞いて下さるので、南丹市への移住を検討されている方はぜひ連絡してみてください。



雫さんのお話、いかがでしたでしょうか。人生の在り方や農業の魅力、地域との関わり方などについて具体的なイメージをお持ちいただけただけではないでしょうか。

雫さんのおもしろい人生を歩んでいきたい、農業に携わりたいという方はぜひ一度、南丹市や美山町に足を運んで地域の方や行政の方とお話をしてみたいはいかがでしょうか。

雫さんの活動を もっと知りたい方はこちら

● Instagram
@shizukufarm

雫さんとお話してみたい方や会ってみたい方は森の京都 DMO までお問合せ下さい！



夢の実現を後押し

地域ならではの支援が

アントレプレナー移住…

森の京都での暮らしのヒントとなる 情報を発信する「森の京都移住・定住マガジン」

今回は南丹市八木町に移住された朱島 伸さんにお話を伺いました。

都会の喧騒を離れ、「南丹市八木町で充実した生活とビジネスを築く」、その可能性を探るお話をお届けします。地方での暮らしの魅力に触れながら、夢を叶えるためのヒントを見つけましょう。



| Profile |

あけじま しん
朱島 伸さん

1989年生まれ。VALMOND Inc. 代表。大手企業で技術職に従事し、半導体研究に携わる。2022年に南丹市八木町に移住し、2023年4月 VALMOND Inc. を設立。最先端のテクノロジーを用いて Well-being やヘルスケアに関するガジェット製品を作っている。

— まずは朱島さんが取り組まれている事業について教えてください

朱島さん：我々は Well-being やヘルスケアの領域を軸に最先端のテクノロジーを用いてガジェット製品（電子機器小物）を作っています。これまでにスマートリングやスマートバイクを発売し、現在は e-bike（電動自転車）の開発に取り組んでいます。「人々の生活に革命をもたらす」というビジョンのもと、地球上の誰もがより健康で満足のいく生活を享受できる未来を実現していきたいと考えています。

— 最先端のテクノロジーと聞くと都市部をイメージしてしまうのですが、南丹市に移住されたきっかけは？

朱島さん：広い居住スペースが必要となったためです。製品を開発する際、設計や試作、テストなど様々な作業を行うため広々とした環境が欠かせません。また、妻も美術作家として活動しており、夫婦ともに広々とした住環境を必要としていました。

— もともと南丹市にゆかりなどがあったのでしょうか？

朱島さん：いいえ。移住する前に訪れたこともありませんでした。私はどこに住むか地域的な拘りはなかったのですが、妻が京都市内の大学で講師をしているので、京都市まで1時間から2時間程度で通える物件を探しているなかで、偶然にも今の家に辿り着きました。ただ、実際に暮らしてみると意外と繋がりがあり、近くに何名か知人が住んでいるのには驚きました。

— 実際に移住をしてみたの生活はいかがですか？

朱島さん：非常に充実した日々を過ごすことができます。近所付き合いや生活環境に関し



でもすぐに適応することができ、趣味であるバーベキューも存分に楽しめているので、自身の好みやライフスタイルに合った最高の環境だと感じています。

一 南丹市の魅力について教えてください。

朱島さん：私は八木町に住んでいるのですが、都市と自然のバランスがとても良いエリアです。京都市内からもアクセスが容易でありながら、豊かな自然環境も魅力の一つです。都会の利便性と自然の豊さの双方を重視される方には非常におすすめです。

それと、我々のようなベンチャー企業にとって地域密着型の金融機関や行政が親身になってサポートをしてくれるという点も非常に魅力です。大手企業が多い都会では金融機関に相談をしようと思っても後回しにされることがありますが、こちらの金融機関はいつも丁寧に対応してくれます。

また、これは京都という括りになってしましますが、京都自体も起業に力を入れており、補助金や助成金、ビジネスマッチングの機会など起業支援が充実しています。

起業家の方やベンチャー企業を営まれている方が京都市との行き来が容易な南丹市に住居やオフィスを構え、京都府をはじめとする各行政の起業支援を受けながら会社を成長させていくことも可能だと感じているので、起業家の方やベンチャー企業を営まれている方にとっても南丹市は魅力的な地域だと思います。

一 逆に南丹市で事業を営むうえで障壁となっていることはありますか？

朱島さん：現時点では何もありません。インターネットがあれば都会に出なくても必要な情報にアクセスすることができますし、必要あれば京都市や大阪市などの都会にすぐに出ることも可能なので、デメリットというものは一切感じていません。

一 最後に移住を考えている方へのアドバイスをお願いします。

朱島さん：自分の理想とする物件があれば妥協せずに粘り強く探し続けて下さい。

私も今の家に巡り合うまで一年以上の時間を要しましたが、結果的に妻も含めて非常に快適な生活を送ることができています。

ちなみに物件を探す際には通勤時間で検索することをおすすめします。多くの人が地域や路線で検索するため、限られたエリアに絞られがちです。

通勤時間で検索すると思いがけない場所に出会うことがあり、選択肢が広がります。新たな発見や可能性が待っているかもしれません。慌てずに自身に合った最適な場所を見つけて下さい。



朱島さんのお話、いかがでしたでしょうか。地方移住や起業に興味を持つ方々にとって大きなヒントになったのではないのでしょうか。地方には都市部にはない魅力やサポートがあり、自らの人生やビジネスにおいて新たな可能性が拓けるかもしれません。



人の温もりに支えられる田舎暮らし

独立をきっかけに京丹波移住..

森の京都での暮らしのヒントとなる 情報を発信する「森の京都移住・定住マガジン」

今回は大阪から京丹波町へ移住された福島大輝さんにお話を伺いました。

移住するまでの人生経験が現在の活動に繋がるエピソードをご紹介します。移住するまでの経緯、現在の活動、京丹波町への想い、京丹波町に住む人の温もりが伝わるお話をさせていただきました。



| Profile |

ふくしま だいき
福島 大輝さん

1989年大阪府大阪市生まれ。アメリカ、オレゴン州ポートランドのコーヒーロースターを始め、梅田や心斎橋などのワインバー、カフェなどで経験を積み2021年京丹波町でann's cafeを開業。2022年から京丹波町に移住。「犬と人々を繋ぐ一杯の珈琲」をテーマにコーヒーの売り上げの一部を保護犬活動費として寄付し一頭でも多くのワンちゃんの命を救い殺処分ゼロを目指して日々活動しています。

不思議な縁で たどり着いた京丹波

一 移住を考え始めたきっかけは？

福島さん：大学卒業後、社会人野球をしていたのですが所属先が城崎温泉の近くで、そこで初めて田舎暮らしをすることになり、暮らしていく中で都会より合っているなと感じました。その時の経験から田舎での暮らしを考えることになりました。

一 田舎暮らしの中でもなぜ京丹波町を選ばれたのですか？

福島さん：城崎での生活の後は大阪に移り住み飲食関係の仕事をしていたのですが、いずれは独立したいと考えていたところ、両親が老犬保護施設の会社を京丹波町で運営していて、施設の一部をカフェスペースとして利用できることになったことが一番のきっかけです。

一 ご両親の影響も大きかったのですね。他の地域も検討されていたのですか？

福島さん：当初は大阪から京丹波町に通っていましたが、曾祖父の家が兵庫県丹波市にあり空き家になっていたため、一時はそこを改修し住むことも考えていましたが、コーヒー豆の仕入れ等のため大阪に通うことが見込まれたので、店舗に近い京丹波町に住むことにしました。飲食店を営業していく上で何より食材豊かなのが京丹波町の良いところなので、常に美味しい食材を使って料理を提供できています。

一 大阪からの移住ということで不便に感じる点などはありませんでしたか？

福島さん：生活拠点を完全に京丹波町へ移すまでは、大阪から電車とバスを利用して京丹波町へ通っていました。公共交通を使って通っていたので特に不便さは感じなかったですね。今は車で移動することが多いのですが、京阪神の方まで1時間半～2時間程度で行くことができ、程良く都会から離れているので、自分の中では理想的な環境でした。



地域の方の温かさに 支えられて

一 福島さんが感じる京丹波町の魅力を教えてくださいませんか。

福島さん：1番の魅力は周りの人がみんな温かいことだと思います。自分のお店も同じ地域の常連さんが多くて、地域に支えられているお店だと思います。近くに住んでいる方から家で採れた野菜をよく頂くので、店で焙煎したコーヒーなどでお返しをしています。都会での暮らしでは考えられないですが、良い距離感で暮らせているなと感じます。

一人の温かさに支えられているとのことですが、何かエピソードがあればお聞かせいただけますか？

福島さん：お店があるのは井尻という地区なのですが、地域の行事や清掃作業に必ず参加するようにしています。大変な作業の時もありますが、そういった機会に参加することでお店や自分のことをよく知ってもらえる機会になったと思います。井尻の方だけではなく、普段食材の仕入れをさせてもらっている京丹波町の生産者の方とも良い距離感で関わることができています。自分と年齢の近い生産者の方も多いので、一緒に京丹波町を盛り上げられたらと思っています。

一人との距離感は都会との生活とは全然違いますよね。移住を検討される方も不安に感じる点かと思いますが、何かアドバイスをいただけますか？

福島さん：人との付き合いは都会では考えられない環境ですよ。大阪に住んでいる時は近所の人と話したこともなかったですし、京丹波町での生活を始めた時は僕も正直びっくりしました。京丹波町の暮らしの中では、近所の人にお互い分けしたりすることが習慣になっているのは、人との関係を繋いでいく上で良いことだと思いますし、相手を思いやる気持ちは勉強になります。最初は人との距離感に戸惑う方もいると思いますが、思いやりの気持ちを持って接することができれば、地域の方とも良い関係が築くことができると思っています。

自身の経験を活かして 京丹波に貢献

野球をされていたとのことですが現在も継続して活動されているのでしょうか？

福島さん：今は京丹波町にある須知高校で週1回コーチとして指導に行っています。京丹波町は野球ができる環境もすごく整っているなと感じています。都会では練習中の音も気にしないといけませんし、公園で気軽にキャッチボールもできません。選手たちには、こんなに素晴らしい環境で野球できることは当たり前ではないので、常に感謝の気持ちを持ってプレーするようにと伝えていきますね。野球に限ったことではないかもしれませんが、のびのびと運動できる環境が本当に素晴らしいですね。僕にも子どもがいるので、子育てをする上でとてもありがたいと思っています。

お子さんがいらっしゃるとのことですが、子育て環境はどのように感じていますか？

福島さん：子どもに対する支援は手厚いなと感じています。同じ年代の子どもは少ないのです



が、離乳食教室などに参加した際に一人一人しっかりと対応していただけるので、とても助かっています。妻も教室などに参加して子育てをされている方と知り合う機会になっているので、人と繋がる意味でも良い環境だと思います。

— 最後に今後京丹波町でどのような活動をしていきたいですか？

福島さん：京丹波町は食の町と言われていて、僕も飲食の仕事をしているので食の面から京丹波町を盛り上げられたらと思っています。最近ではマルシェなどのイベントが充実しているので、積極的に参加するようにしています。昨年もマルシェ限定の商品を販売し、今までとは違ったチャレンジもしています。行政、民間関係なく一致団結している雰囲気が京丹波町にはあるので、その一員として貢献したいですね。



福島さんのお話、いかがでしたでしょうか。現在の仕事から独立を検討されている方にとって、参考になるお話だったのではないのでしょうか。小さなお子さんがいらっしゃるご家庭にとっても参考になったかと思います。

新たなチャレンジ、起業のヒントを探したい方は京丹波町に足を運んでみてください！福島さんを始めとする起業者の方々とお話をしてみてはいかがでしょうか。

福島さんの活動をもっと知りたい方はこちら

- ann' s café 公式 HP

<https://www.dogcafe-ann.com/>

- Instagram

@anns_cafe.anns_coffee

福島さんとお話してみたい方や会ってみたい方は森の京都 DMO までお問合せ下さい！



農業・食で京丹波を盛り上げる

京丹波移住..

祖父からの事業承継をきっかけに

森の京都での暮らしのヒントとなる 情報を発信する「森の京都移住・定住マガジン」

今回は京丹波町へUターンされた野村幸司さん
にお話を伺いました。

Uターン後は祖父から事業承継をして農業を
されています。地元京丹波への思い、若い視点の
農業への考え方など、熱い思いを語っていただ
きました。



| Profile |

のむら こうじ
野村 幸司さん

1993年生まれ。京丹波町出身。大学卒業後に東京
の食品卸の商社営業を経て、2017年に京丹波町へ
Uターン。京都で野菜の流通業に従事したのち、
祖父が始めた農業を継ぐ形で2020年に独立。京
野菜や黒枝豆の一大産地でありながら、農業の担
い手不足が進む京丹波町で農業に邁進中。

祖父からの事業承継

— Uターンで京丹波町へ戻ってこられたとのことですが、元々戻りたい気持ちがあったのでしょうか？

野村さん：大学を卒業してからまずは都会に出て社会経験を積もうと思って、2年ほど食品関係の商社で働いていました。その時から漠然といずれは京丹波町へ戻りたいなと考えていました。

— Uターンをされたきっかけがあったのですか？

野村さん：僕の祖父が農業をしていたのですが、ある時祖父から「もう若い人全然おらへんわ。65歳でも若い部類に入る。」と聞いて、20代、30代で農業をしている人は当時少なく、この先京丹波町の農業はどう維持されるのかなとか色々考えることになりました。地域の課題を目の当たりにして、今の自分に何ができるのだろうという思いもありましたが、2017年にUターンしました。

— Uターン後はすぐに農業を始められたのですか？

野村さん：Uターン後はまず農業関係の商社に入って、農業の流通について勉強しながら週末に農業に携わっていました。その後、商社を退社して本格的に農業を始めていきました。本格的に農業を始める前にいろんな角度から農業を知ることができたので、自分にとって良い時間になったなと思いますね。

農業を通じた京丹波の暮らし

— 現在されている農業について詳しくお話いただけますか？

野村さん：京丹波町の特産品になっている黒枝豆、伏見とうがらし、京かんざしなどの伝統的な野菜を継承して徐々に栽培数を増やしています。また、新しく【京丹波ラディッシュ】というブランド野菜を作り、新しい京丹波町の特産野菜にしようと思い活動しています。京丹波ラディッシュは通常のラディッシュよりもサイズが大きいのが特徴です。ラディッシュは夏以外の季節に収穫可能で、他の野菜と比べると農作業がしやすい大きさなので、うちで働いているのは女性スタッフの方が多いですね。



— 女性スタッフの方が多いというのは、働きやすい職場作りには何か工夫されているのでしょうか？

野村さん：うちでは農業に関わりたい方や、地域のママさんが約20名スタッフとして在籍しています。子育てをされているスタッフさんの一例ですが、子ども園にお子さんを預けてからお迎えまでの9時半から3時半といった隙間時間

で働けるような雇用の仕方をしています。参観日やお子さんが体調を崩した時に、スタッフみんなで「お子さん優先で！」という雰囲気づくりをしながらとにかく女性の皆さんが働きやすい場を作っています。特に農業でそういう雇用を増やしていくことで、農業で働くことも選択肢の一つに入っていればと考えています。また副業兼業で働くスタッフも積極的に雇用しています。平日はうちのスタッフとして働き自分で野菜を作って、週末は貸店舗で自分の作った野菜を材料にして定食屋さんを営業されている方や、蕎麦屋さんを営業されている方もいます。

一 素晴らしい試みですね。なかなかできることではないと思いますが、どのような思いで始められたのですか？

野村さん：京丹波町では自分らしさを模索して、チャレンジできる環境の中で働き方一つにしても色々な選択ができると思っていますし、自分自身もそのチャレンジを支えられたらと思いついて取り組んでいます。特に専業農家として働いていくのはものすごくハードルが高く、僕自身は祖父から事業承継したので、地元の農家さんとの繋がりや地元ならではのルールを知っていた分、農業をしやすい環境が整っていました。でも農業って閉鎖的な部分がまだまだ多く、農業に関する専門的な知識経験もないと、移住して農業をすることはものすごくハードルが高いものだと感じています。農業の経験をしながら地域との橋渡しもできたらいいなと思い、新規就農希望の方を一旦うちで受け入れて、自分がどういう農業を目指してやっていきたいか、どのように販路を確保するかなど、農業を事業として成功してもらうためにサポートも始めています。



これからも京丹波を 盛り上げていくために

一 野村さんがUターンされて約7年経過しますが、京丹波町が変わったなと思うところなどありますか？

野村さん：Uターンしてから京丹波町の雰囲気はずっと見てきたのですが、Uターンする前に地域活動とかで地域に関わった時は、周りには若い20代30代の人ほぼいなくて、地域のイベントに積極的に参加している人って結構マイノリティな感じでした。けれど、コロナ禍を経てこの数年の間にUターンやUターンの人、年齢層で言うと20代30代がすごく増えたなという印象ですね。マイノリティだったのがマジョリティになってきていて、その様子を見ている地域の人たちも頑張っているとか面白そう、楽しそうやなみたいな「混ぜてよ」ってポジティブな雰囲気になってきているなあっていうのはすごく肌で感じています。

一 京丹波町を盛り上げたいという思いでUターンされましたが、今後の展望を教えてくださいませんか？

野村さん：僕の仕事は農業ってジャンルですけど、農業だけじゃなくていろんなジャンルの人が集まってきて、一緒に面白い事ができれば嬉しいですね。町内のマルシェの企画にも携わっていますが、多様な人たちが一緒になって一つの事に向かって進むことで、結果的に京丹波町が盛り上がると良いなと思います。

農業の話だと、農業の担い手不足によって活用されていない農地が増えているので、このような土地を活用したいなと考えています。農業には色々な課題を感じているので、課題解決に向かいつつ京丹波町全体の農業が盛り上がるように貢献していきたいです。

野村さんのお話、いかがでしたでしょうか。20~30代の人が増え、新しいことにチャレンジしやすいという町の雰囲気が伝わってきました。農業を始めたい、少しでも農業や食に携わってみたいと考えている方や新しく何かを始めたいという方にとって、参考になるお話だったのでないでしょうか。

農業に関するヒントを探したい方は京丹波町に足を運んでみてください！

野村さんを始めとする生産者の方々とお話をしてみたいでしょうか。

野村さんの活動を もっと知りたい方はこちら

- 京の丹波 野村家公式 HP
<https://nomurake.jp/>
- 京丹波ラディッシュ公式 HP
<https://radish-kyoto.com/>
- 京の丹波 野村家 Instagram
[@kyonotamba_nomurake](https://www.instagram.com/kyonotamba_nomurake)
- 京丹波ラディッシュ Instagram
[@radish_kyotamba](https://www.instagram.com/radish_kyotamba)

野村さんとお話してみたい方や会ってみたい方は森の京都 DMO までお問合せ下さい！